

順接型の接続助詞「から」と中国語の相当表現の対照研究

新田 小雨子

キーワード

因果関係・已然表現・未然表現・有標識・無標識

1. はじめに

本稿では、日本語の原因・理由を表す「から」が使用される場合は、中国語でどのような表現に対応するのかについて考察する。日本語においては、節と節を一定の意味関係や論理関係のもとに結びつけて文脈を展開する際に、接続助詞が重要な役割を果たしているが、中国語においては、接続機能を果たす“关联词语”¹⁾を付加したり、“意合法”²⁾によって省略したりする場合がある。中国語の因果関係を表す複文には、「有標識(“关联词语”を用いるもの)」のものや、「無標識(“关联词语”を用いないもの)」のものがある。したがって、「から」が中国語に翻訳される場合は、対応する中国語の表現に、「無標識」のものも存在する。また、中国語には、「から」のように多機能な“关联词语”がないため、「から」が中国語の“关联词语”に置き換えられる際に、「から」で結びつけられた従属節と主節がそれぞれ「已然表現」であるか否かによって、対応する“关联词语”が変わってくる。

本稿においては、日本語の小説と中国語対訳のデータを用いて、「から」に対応する「有標識」の中国語表現を整理し、両者の対応関係の実態とその要因を明らかにするとともに、「無標識」の中国語表現についても、同様にその要因などを究明する。これらの作業を通して、日中両語の因果関係を表す複文におけるメカニズムや接続表現の機能などの相違を明確にしたい。

2. 先行研究

2.1 日本語の条件接続形式と中国語の「主従複文」³⁾の対応関係

中国語の「主従複文」には“因果句”⁴⁾、“条件句”⁵⁾、“転折句”⁶⁾、“讓歩句”⁷⁾の4種類がある。大河内(1967)は、これらの「主従複文」と「已然表現」、「未然表現」との関係について、以下のように分析している。

【表1】

	I	已然表現	未然表現
II	順接関係	因果句	条件句
	逆接関係	転折句	譲歩句

偏正複句⁹⁾の従句（従属節）はそれぞれ2つの条件で規制されている。Iは従句と主句（主節）の一般関係として、それが順接であるか逆接であるかということ。IIは従句の内容が已然であるか未然であるかということである。（中略）已然表現とは、従句の表現内容がすでに行われたもの、すでにあったものというばかりでなく、たとえ行われていなくても行われることが明確に実証されているものを含む。同様に未然表現というのも、行為、行動として未然であるばかりでなく、その行われることが未実証、未確認であることを含む。

鄭亨奎（1992）は、大河内の分類を大枠として受け継いで、日本語の条件接続形式と中国語の「主従複文」の対応関係を明らかにし、その対応関係を【表2】【表3】に示している。

【表2】

	未然表現	已然表現
順接関係	順接の仮定条件文（日）	順接の確定条件文（日）
	条件句（中）	因果句（中）
逆接関係	逆接の仮定条件文（日）	逆接の確定条件文（日）
	譲歩句（中）	転折句（中）

【表3】

	未然表現（仮定）	已然表現（確定）
日本語	ト、バ、タラ、ナラ	カラ、ノデ
中国語	如果…就、要是…就	因为…所以

鄭（1992）による「已然表現」と「未然表現」は前述した大河内（1967）と同義である。両者とも、従属節の内容が已然か否かに着目し、中国語の「主従複文」の分類や日中両語の対応関係を判断する条件としている。

2.2 問題提起

以上の説は、従属節が「已然表現」であるか否かに注目しているため、「已然表現」と「未然表現」に関する定義も従属節の表現内容に限られている。従属節のみに主眼を置けば、両語の対応関係は【表2】に示した通りになる。しかし、種類別に細かく対照分析すると、日本語の主節が「已然表現」であるか否か、あるいは主節と従属節の内容によって対応する中国語の接続形式が変わってくるはずである。

【表2】によれば、「順接の確定条件文」は、中国語の“因果句”に対応しているが、実際は、中国語の“因果句”はさらに2種類に分けられる。刘月华他（1991）は、「因果複文（＝“因果句”）」は「偏句（従属節）が原因を表し、正句（主節）が結果を表すもの」と定義して、「説明因果複文」⁹⁾と「推断因果複文」¹⁰⁾に分け、さらに両者の異同について、「説明因果複文の正句が述べているのは既に実現した事実であるが、推断因果複文の正句が述べているのはまだ実現していないか、または実現したかどうかははっきりしない事

実である。」と述べている。つまり、両者の異同は主節が已然表現か未然表現かということにある。このように、日本語の「順接の確定条件文」の代表的な接続助詞「から」と対応する中国語の表現には、二種類の形式が考えられる。「から」文の従属節と主節が「已然」であれば、中国語の「説明因果複文」に対応し、「から」文の従属節が「已然表現」、主節が「未然表現」であれば、「推断因果複文」に対応すると考えられる。そこで、本稿で、「から」とその中国語の相当表現の対照分析をするに当たって、「従属節」が「已然表現」か否かだけでなく、「主節」も「已然表現」か否かにも注目する。また、表現内容にどのような特徴があるかにも着目したい。なお、本稿の「已然表現」と「未然表現」については、大河内(1967)の定義に従うが、従属節に限定せず、「已然表現」とはすでに行われたもの、すでにあったものというだけでなく、たとえ行われていなくても、行われることが明確に実証されているものも含めることにする。同様に、「未然表現」についても、「行為・行動として未然である」というだけでなく、それが行われることが「未実証、未確認である」ことを含むものとする。

3. 考察対象および調査資料

考察対象は、因果関係を表す複文における日中対照に重点を置くため、原因・理由を表す「から」を対象とする。その中で、まず一般的な用法を中心に対照分析を行うこととし、今回は、以下のものについては除外する。

- ① モダリティ形式と共起するもの
- ② 「のだ」「のです」に続くもの
- ③ 結果や帰結を先に述べて、原因・根拠・理由などを後から説明的に述べるもの
- ④ からは、からは、からこそなど

なお、基本的にはモダリティ形式と共起しないものを扱うが、ここではモダリティ形式の中の真正モダリティ形式、疑似モダリティ形式¹¹⁾と共起する「から」のみを除外する。

本稿において、調査対象を文芸作品の地の文に限定し、また、【表4】にある通り、日本語の文芸作品とその中国語訳3種を調査資料とする。そのうち、一つの原作に対して、複数の訳本がある場合は、それぞれの該当する表現を用例収集の対象とする。その詳細については、本稿の末尾の用例出典を参照されたい。

4. 「から」の中国語への翻訳傾向

「から」に対応する中国語の表現は、「有標識」と「無標識」の2種類あり、「有標識」はさらに2種類に分けられる。本稿においては、訳文で、「から」が“连词(接続詞)”と“连词+副词(副詞)”に置き換えられているものを「a類」、また“副詞”および他の品詞に置き換えられているものを「b類」、「無標識」のものを「c類」とする。作品別の中国語への大体の翻訳傾向を【表4】に示す。

【表4】「から」の中国語への翻訳傾向

作品名・訳者		翻訳傾向				有標識		無標識		合計
		a	b	c						
『雪国』	① 徐輔材・杜水源	11	42.3%	2	7.7%	13	50.0%	26	100.0%	
	② 叶渭渠	2	7.7%	4	15.4%	20	76.9%	26	100.0%	
	③ 高慧勤	8	30.8%	1	3.8%	17	65.4%	26	100.0%	
『吾輩は猫である』	① 于雷	75	29.8%	60	23.8%	117	46.4%	252	100.0%	
	② 刘振瀛	104	41.3%	49	19.4%	99	39.3%	252	100.0%	
『挽歌』	林少华・张洁梅	4	18.2%	2	9.1%	16	72.7%	22	100.0%	
合計		204	33.8%	118	19.5%	282	46.7%	604	100.0%	

5. 「から」と中国語相当表現の対照と分析

5.1 「有標識」における対照と分析

【表5】「から」の中国語の相当表現「有標識」翻訳リスト及び相当表現別使用数

a				b							
P	番号	訳語	出現数	P	番号	訳語	出現数	P	番号	訳語	出現数
I	a-1	因为…	15	III	a-19	因为…从而	1	IV	b-1	…就	25
	a-2	因…	3		a-20	因为…而	1		b-2	…便	40
	a-3	只因…	4		a-21	正因为…因此	1		b-3	…也	9
	a-4	正因为…	1		a-22	由于…所以	11		b-4	…又	4
	a-5	由于…	7		a-23	由于…因此	1		b-5	…使	3
	a-6	既然…	4		a-24	由于…于是	1		b-6	…才	4
	a-7	既…	2		a-25	既然…那么	1		b-7	…只得	4
	a-8	…因而	4		a-26	既…那么	1		b-8	…只好	18
	a-9	…所以	78		a-27	因为…才	1		b-9	…还是	2
	a-10	…因此	23		a-28	因为…也	2		b-10	…总	3
	a-11	…于是	17		a-29	因为…使	1		b-11	…当然	5
	a-12	…那么	6		a-30	只因…才	1		b-12	…只有	1
	a-13	…以至	2		a-31	因…才	1				
	a-14	…结果	1		a-32	正因为…才	1				
II	a-15	因为…所以	5	a-33	由于…使	1					
	a-16	因为…因而	1	a-34	既然…就	1					
	a-17	因为…于是	1	a-35	既然…又	1					
	a-18	因为…当然	1	a-36	既…便	1					

注1 a⇒“连词”を用いる型、b⇒“连词”を用いず、“副词”などを用いる型

注2 「…」前の接続表現は「原因・理由」を表し、後の接続表現は「結果・補苴」を表す。

注3 「P」は「パターン」を表す。

注4 Iは“连词”が単独に使用される表現である。

注5 IIは“连词”と“连词”を呼応させて使用する表現である。

注6 IIIは“连词”と“副词”を呼応させて使用する表現である。

注7 IVは“连词”を用いず、後件に“副词”あるいは他の品詞のみ使用される表現である。

「から」の訳文には、多種多様な接続表現があるが、【表5】の通り、中でも、〈P, 所以 Q (P = 原因、Q = 結果)〉という結果・帰結を表す型の出現数が最も多いということがわかる。中国語の「因果複文」には「説明因果複文」と「推断因果複文」の2種類があるが、ここでは2種類とも観察された。以下、「から」に対応する「有標識」の中国語表現を4パターンⅠ～Ⅳに沿って、日本語原文と対照しながら、対応実態を考察する。

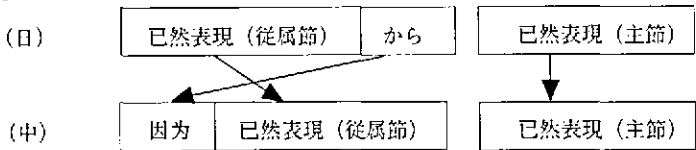
Ⅰ. 「から」に対応する“连词（接続詞）”が単独で使用される中国語の表現

- (1) 猫の事から西洋婦人の礼服を拝見した事はない。〔吾〕
 [因为]我是猫儿，没有看见过西方妇女穿的礼服。〔我②〕
- (2) 客の対話は途中からであるから前後がよく分らんが、…。〔吾〕
 [因为]半路才听，对宾主对话的来龙去脉不大清楚；…。〔我①〕

(1) と (2) の「から」は、何れも原因・理由を表す〈因为 P, Q〉型と対応している。現代中国語においては、「説明因果複文」の代表的な標識は〈因为 P, 所以 Q〉型である。〈因为 P, Q〉型は〈因为 P, 所以 Q〉型の省略形式と認められる。〈因为 P, 所以 Q〉によって表される因果関係は一般的には「已然関係」であるが、この点について、胡裕树 (1989) が「〈因为 A, 所以 B〉の中の A と B の関係は切れ目がなく、それはすでに実現したことと、実証したことである。(拙訳)」と述べている。また、邢福义 (2002) は、「“因为 P, 所以 Q”型は一般的には「已然の因果関係」を表す。つまり、実現したことについて因果を述べる。(拙訳)」と指摘している。

以上の記述によると、〈因为 P, 所以 Q〉型あるいは〈因为 P, Q〉型を使用する場合、一般的には原因及び結果が「已然表現」であることが条件であるといえる。(1) と (2) の用例も例外なく、明らかに「已然の因果関係」になっている。原文を見ると、〈因为 P, Q〉に訳された「から」によって表された関係は「已然関係」であることがわかる。これらの対応関係を図示すると、【図1】のようになる。

【図1】



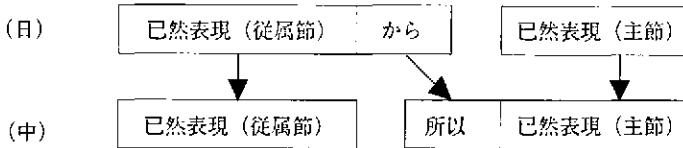
- (3) …半玉がなく、立って踊りたがらない年増が多いから、娘は重宝がられている、〔雪〕
 这里没有雏妓，多数是不愿意起舞的半老艺妓，所以姑娘就更显得可贵了。〔雪①〕
- (4) おじさん、私は貴方に好意を持っておりますから、貴方が不幸せになられるのを好みません。〔挽〕
 叔叔，我对您怀有好意，所以不希望您变得不幸。〔挽〕

(5) 本人に聞いて見ない事だから頼とわからない。〔吾〕

我没有问本人, 所以我毫不了解。〔我①〕

パターンIでは、〈P, 所以Q〉型を用いて「から」に対応させるものももっとも多かった。〈P, 所以Q〉型は、「説明因果複文」の代表的な「結果・帰結」を表す表現であり、使用条件は、〈因为P, 所以Q〉型や〈因为P, Q〉型と同じように、一般的には原因及び結果が「已然表現」であることを要する。〈P, 所以Q〉型によって表された関係は〈因为P, 所以Q〉型や〈因为P, Q〉型と同様であるが、「結果」に重点が置かれる効果を生み出す。一方、〈P, 所以Q〉型に訳される原文を見ると、「から」によって表された原因及び結果も「已然表現」であることがわかる。したがって、「已然因果関係」を表す「から」は、〈P, 所以Q〉型にも対応しやすいと考えられる。その対応関係は、【図2】のようになる。

【図2】



(6) かくまでに元気旺盛な吾輩の事であるから鼠の一疋や二疋はとろうとする意志さえあれば、寝ていても訳なく捕れる。〔吾〕

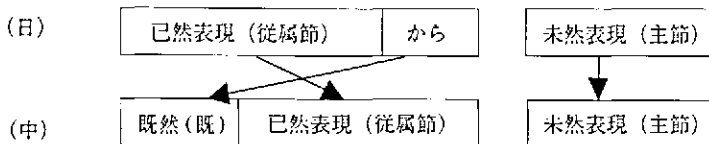
既然是这么精力充沛的猫, 捉那么一两只老鼠嘛, 只要想捉, 闭上眼睛也不费吹灰之力便可以捉住的。〔我①〕

(7) 既に一応感服したものだから、もうやめにするかと思うと…〔吾〕

既已赞佩, 以为他会就此罢休。〔我①〕

(6)と(7)の文の主節にそれぞれ「ば、ても、か」というような仮定を表す表現や推量を表す表現を用いていることから、主節は「未然表現」であることがわかる。一方、訳文は〈既然(既)P, Q〉型をとっている。「既然」は「推断因果複文」を表す代表的な標識であり、「既」²⁹⁾も同じ機能を有している。「推断因果複文」は、主節がまだ実現していないか、または、実現したかどうかははっきりしない事実を表すという特徴があり、〈既然(既)P, Q〉型を用いるのは、主節が「未然表現」であることを必要とするといえる。このように、「から」によって関係づけられた従属節と主節が、それぞれ「已然表現」と「未然表現」である場合は、〈既然(既)P, Q〉型に対応しやすいと思われる。両者の対応関係は【図3】のようになる。

【図3】



- (8) 但し全然分らんでは気がすまんから勝手な註釈をつけてわかった顔だけはする。
⇒ [吾]

不过, 完全读不懂也不太服气, 于是胡乱做些注释总算做出个懂的样子。[我②]

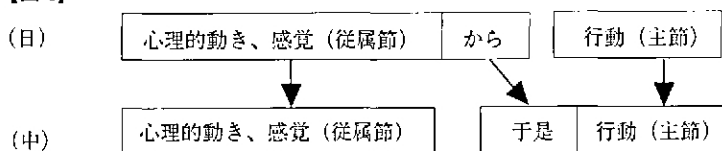
- (9) もぐれば苦しいから、すぐがりがりをやる。[吾]

一钻进水里就憋得十分难受, 于是又挠起缸来。[我②]

(8) と (9) については、まず「から」によって結び付けられた「従属節」と「主節」の特徴を観察する。(8) の従属節では、「気がすまん」という心理的な動きを表す慣用的表現が使用され、その心理的動きによって「勝手な註釈をつけてわかった顔だけはする」という行動がなされた。(9) の従属節では、「苦しい」という感情形容詞が使用され、「苦しい」と感じたことによって、「すぐがりがりをやる」という行動がなされた。したがって、以上の例の「から」は、すべて「行動の理由」を表す「から」だと言える。

一方、訳文では、それに対応しているのは〈P, 于是Q〉型である。“于是”について、王起瀾他(1989)が“…于是…”は因果関係を表す時に、継起関係を表す意味も含まれている(拙訳)と指摘している。また、邢福义(2002)には、「前分句(従属節)は感覚或いは心情を表し、後分句(主節)はそれによって引き起された結果を表す。(拙訳)」という見解が示されている。(8) と (9) のように、「心理」「感覚」が続けて生ずる行動の理由になる場合、「から」は継起関係を表す意味も含んでいる〈P, 于是Q〉型に対応しやすい。その対応関係を図示すると、【図4】のようになる。

【図4】



II. 「から」に対応する複数の“连词”が呼応して使用される中国語の表現

「から」に対応する中国語の表現は、〈因为 P, 所以 Q〉型などのような“连词(接続詞)”と“连词”を呼応させる形式をとる場合がある。それは節と節の関係を一層はっきりさせるからである。

- (10) 無理を通そうとするから苦しいのだ。[吾]

由于我硬要做这种办不到的事儿, 所以颇受痛苦。[我②]

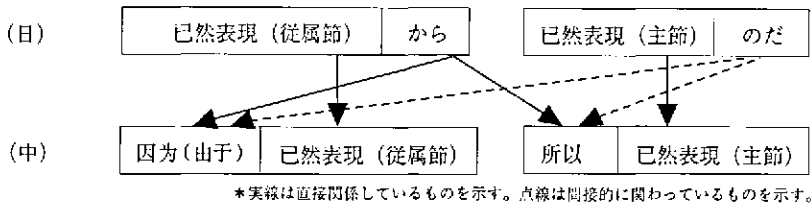
- (11) 昨日は鏡の手前もある事だから、おとなしく独乙皇帝陛下の真似をして整列したのであるが、[吾]

昨天是因为面对着镜子, 所以这些胡子学着德皇陛下的样子, 老实实在地排列在那里。[我②]

「から」に対応するのは、いずれも二つの“连词”を対にして用いて、「説明因果関係」を表す型である。これらの原文を見ると、一つの共通点がある。原文の「から」は、文末の「のだ」と共起するものである。今回収集したデータの中には、文末の「のだ」と「から」とが共起する場合は、対応する「有標識」の中国語表現が対で用いられるものが少なくない。これは原文の文末に「のだ」を付けることによって、「から」文の焦点が変わっ

てくことと関係があると考えられる。主節に「のだ」を接続して従属節に焦点が置かれる場合については、于日平 (2000) が「文全体を「のだ」のスコープの中に収める表現と、従属節に焦点が置かれている表現との2つがある」と述べている。中国語には、「关联词语」と文末の助動詞を共起させる用法は存在しないが、「连词」と「连词」を呼应させ、あるいは、「连词」と「副词」を呼应させる用法が多く見られる。「连词」を対で用いることによって、重点が従属節にも主節にも置かれるため、文全体を「のだ」のスコープの中に収める表現に対応すると考えられる。したがって、「から…のだ」が対で用いられる中国語表現に対応しやすいと考えられる。また、「従属節に焦点が置かれている表現」に対応する場合は、重点を原因節に置く〈因为 P, Q〉型などが用いられる。「から…のだ」と〈因为(由于) P, 所以 Q〉型の対応関係を図示すれば、【図5】のようになる。

【図5】



Ⅲ. 「から」に対応する“连词”と“副词”が呼应して使用される中国語の表現

「から」に対応する中国語の表現では、「连词」と“副词”が呼应して用いられるものも見られる。時間の前後継起を表し、従属節と主節の間に一定の関係があることを示す“副词”の“…就/又/才/也/还…”が“连词”と組み合わせさせて使用される場合は、「连词」が前後関係を示す役割を担うのに対して、“副词”はただ従属節と主節を接続する機能を果たし、特定の関係を示さない。

(12) あまり書き方が真面目だものだからつい仕舞まで本気にして読んでいた。[吾]

只因他写得似乎严肃, 这才正经地读完。[我①]

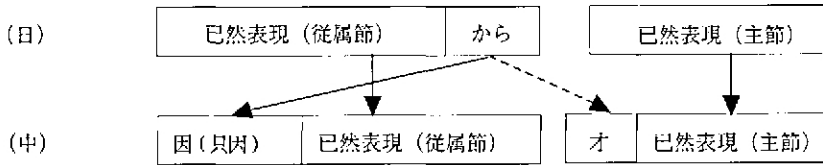
(13) 主人は吾輩の普通一般の猫でないと云う事を知っているものだから吾輩はやはりのらくらしてこの家に起臥している。[吾]

但因主人了解咱家不是一只凡猫, 咱家才依然悠哉悠哉, 在这个家庭里虚度晨昏。

⇒ [我②]

「已然の因果関係」を表す「から」は〈因(只因) P, 才 Q〉型にも対応できる。訳文では、「説明因果複文」のマーカーの“因 (=因为)”などが用いられていることから、二文とも「説明因果複文」だということがわかる。二例とも“连词”と“副词”の“才”が呼应し、“才”は特定の関係を示す機能は有していないが、主節に“连词”がなければ、「結果」を表す接続機能を担うことになる。また、“副词”の“才”を用いることにより、原因の論理関係を強める効果が生じる。「から」と〈因(只因) P, 才 Q〉型の対応関係を図示すると、【図6】のようになる。

【図6】



IV. 「から」に対応する“副词”あるいは他の品詞が使用される中国語表現

「から」に対応する中国語表現には、“副词”などを用いて、従属節と主節を接続する表現が少なくない。中には、パターンⅢで言及した特定の関係を示さない“副词”のみならず、「因果関係」を示す機能を持つ“副词”も見られた。たとえば、“只好、只得”などである。ここで、まず“只好、只得”と「から」の対応関係について検討する。

(14) しかし減多に声を立てると危険であるからじっと休えている。〔吾〕

但是胡乱出声是危险的，只得忍住不笑。〔我①〕

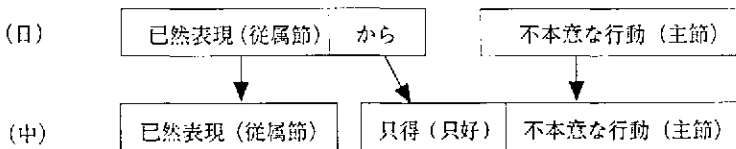
(15) 君は惰性で急廻転が出来ないからやはりやむを得ず前進してくる。〔吾〕

蟑螂君出于惰性，一时转身不得，只好仍然向前爬。〔我②〕

“副词”の“只得”“只好”について、王起瀾他(1989)が「分句を接続し、因果関係を表す。つまり前分句は原因を表し、後分句は“只得”を用いて、前の原因のため、他の選択の余地がなく、そうせざるを得ないことを表す。“只好”も分句を接続し、因果関係を表す。用法は“…只得…”と同様である。(拙訳)」と述べている。

一方、「から」が使用される原文において、従属節の理由によって主節で行った行動は、動作主が心理的に抵抗のある行動だということが明らかになっている。それぞれ「じっと休えている」「やはりやむを得ず前進してくる」というような「不本意」な表現が用いられている。このように、不本意な行動の理由を表す「から」は「因果関係」を表す“副词”の〈P, 只得(只好)Q〉型に対応しやすい。その対応関係は【図7】のように図示される。

【図7】



(16) 吾輩は少々気味が悪くなったから善い加減にその場を胡魔化して家へ帰った。

⇒〔吾〕

我看到这般情景有点害怕，就随便应付了几句赶紧回家了。〔我②〕

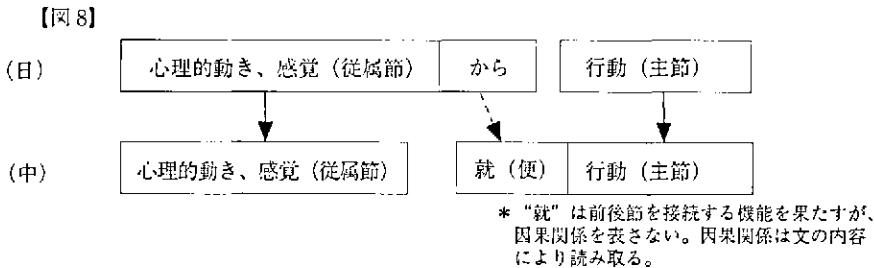
(17) 眼をあいていると飲みにくいから、しっかり眠って、またびちゃびちゃ始めた。

⇒〔吾〕

睁着眼睛喝不舒服，便死死地闭上眼睛，又吧嗒吧嗒地舔起来。〔我①〕

従属節の「心理的な動き」などが主節の「行動」の理由になる場合、「から」は“副词”の“就、便”と対応する傾向がある。“就”と“便”は意味および用法はほぼ同じであり、互換性のあるものである。“就”と“便”は時間の前後継起を表し、従属節と主節の間に一

定の関係があることを示す機能を持つため、“就”と“便”によって接続された前後の節の関係は継起関係に伴う因果関係だと思われる。したがって、〈P, 就(便) Q〉型を用いる文と、パターンIの〈P, 于是Q〉型を用いる文とは、同一の特徴を有していると考えられる。つまり、従属節が感覚あるいは心情を表し、主節はそれによって引き起された結果を表すという特徴である。「から」と〈P, 就(便) Q〉型の対応関係を図示すると、【図8】のようになる。



5.2 「無標識」における対照と分析

- (18) 坊やちゃんもなかなか自信家だから容易に姉の云う事なんか聞きそうにしない。
⇒〔吾〕

小东西也是个十足的自信家，不想听姐姐的话，〔我②〕

中国語の訳文では、例(18)のように、「から」の対訳がないものが46.7%と、極めて多い。つまり、「から」の意味が全く訳文に反映されていないのである。これは「から」と中国語の接続表現との間の明らかな相違点である。中国語では、「关联词语」を用いない従属節と主節の組み合わせを“意合法”と称している。“意合法”の範囲について、王維賢他(1994)は、「“意合句”は表面構造ではいかなる“关联词语”も用いないものを指す。また、表面構造では、実際に“关联词语”を使用することができるが、省略されているもの、および“关联词语”を付加することができないものも指す。(拙訳)」と規定している。以下、王の記述を参考に、観察された「無標識」の主な傾向を、以下の2パターンに分け、考察する。

V 実際に“关联词语”を使用できるが、省略されているもの

VI “关联词语”を付加すると、不自然になるものや、“标点符号(文章記号)”の“。”によって、「複文」を“句群”にしたもの

V. 実際に“关联词语”を使用できるが、省略されているもの

- (19) 吾輩は日本の猫だから無論日本最負である。〔吾〕
 (19') 咱家是日本猫，自然偏袒日本。〔我①〕
 (19'') 在下是只日本猫儿，所以多少也有些爱国心。〔我②〕
 (20) 先方は羽根のある身分であるから、こんな所へはとまりつけている。〔吾〕
 (20') 对方是有翅膀的东西，能够继续停在这里。〔我②〕
 (20'') 而对方因为^有有翅膀，在这种地方是站得惯的。〔我①〕
 (19)と(20)は『吾輩は猫である』とその二つの訳本の例である。訳文の全般的な傾

向は、共通するが、文レベルになると、訳者によってとらえ方が異なってくる場合が多い。(19') (20') の文は、語順で論理関係などを表す“意合法”を用いたものである。“关联词语”は用いていないが、順接関係がはっきりしているため、従属節の表現内容が已然であることから判断して、“因果句”だということがわかる。また、主節も事実に基づいて述べているため、「説明因果複文」だということが判断できる。(19') (20') の文はいずれも“关联词语”を用いており、前後の論理的な関係をはっきりさせることに意図があると考えられる。このように、一般的には中国語の接続表現の使用は自由であり、表現意図や言語環境によって、“关联词语”を用いても、用いなくても、意味関係が理解されるという場合が多い。

VI. “关联词语”を付加すると、不自然になるものや、“标点符号(文章記号)”の“。”によって「複文」を“句群”にしたもの

- (21) 天の河はその山波の線で切れるところに裾をひらき、また逆にそこから花やかな大きさと天へひろがってゆくようだった^{から}、山はなお暗く沈んでいた。〔雪〕
- (21') 银河向那山脉尽头伸展它的下端，再返过来，从那儿以壮阔的气势向太空扩展开去。山峦更加深沉了。〔雪①〕
- (21'') 银河向那山脉尽头伸张，再返过来从那儿迅速地向太空远处扩展开去。山峦更加深沉了。〔雪②〕
- (21''') 银河在峰峦起伏的尽头，展开她的裙裾，反过来，似乎又向天空灿穿四射。山容益发显得黑沉沉的。〔雪③〕
- (22) 山袴の股は膝の少し上で割れている^{から}、ゆっくり膨らんで見え、…〔雪〕
- (22') 裤裙的胯裆是从稍上的地方分叉的，看起来有些隆起。〔雪①〕
- (22'') 裤腿膝头稍上的地方开了叉，看起来有点臃肿。〔雪②〕
- (22''') 雪裤腿在膝盖上方开了叉，鼓鼓囊囊的。〔雪③〕

(21) と (22) のような場面描写文は「から」が用いられるが、中国語では論理関係を明らかにする“关联词语”の使用が不要になる。それはありのままに描写し、読み手の連想を喚起することを重視するためである。このような複文は、日本語では、原因・理由を表す「から」を用いることにより、節と節の因果関係がはっきりするが、中国語では、「から」の対応表現が用いられないため、因果関係のニュアンスが明らかに弱まっている。

(21) の訳文 (21'') (21''') は、原文の構造とは異なり、「連文」になっている。中国語では、このような形式のものを「複文」の範囲から外し、“句群”¹³⁾ と称している。相互に関連する複数の文を用いて、共に比較的複雑な意味を表す“句群”は、いくつかの節を用いて、共に複雑な意味を表す「複文」と、意味上共通点を持つため、多くの場合、両者は相互に入れ替えることができる。

6. まとめ

以上の分析結果をまとめると、【表6】のようになる。

【表6】「から」の中国語相当表現の分析結果まとめ

	類	パターン	代表的な 対応表現	従属節		主節		特 徴
				形式	内容・意味	形式	内容・意味	
有標識	a “连词”および“连词+副词”に置き換えられているもの	I “连词”が単独に使用される表現	因为P, Q	已然	事実であること	已然	事実であること	原因・理由を表す型。「原因」に重点が置かれる効果を生み出す。
			P, 所以Q	已然	事実であること	已然	事実であること	「結果・帰結」を表す表現。「結果」に重点が置かれる効果を生み出す。
			既然(既)P, Q	已然	事実であること	未然	実現していない、または実現したかどうか不明なこと	已然の事実により結果を推断する。
			P, 于是Q	已然	心理的動き、 感覚	已然	行動	因果関係を表す時に、継起関係を表す意味も含まれている。
	b 接続機能を果たしている“副词”などに置き換えられているもの	II “连词”と“副词”を呼応させて使用する表現	因为(由于)P, 所以Q	已然	事実であること	已然	事実であること	代表的な「因果複文」。前後の論理的関係が密接になる。文末の「のだ」と共起する「から」に対応しやすい傾向がある。
			III “连词”と“副词”を呼応させて使用する表現	因(只因)P, 才Q	已然	事実であること	已然	事実であること
c “连词”あるいは“副词”が示されていないもの	IV	P, 只得(只好)Q	已然	事実であること	已然	不本意な行動	不本意な行動を表す際に用いられる。「因果関係」を表す“副词”。	
		P, 就(便)Q	已然	心理的動き、 感覚	已然	行動	“就(便)”によって接続された前後文の関係は継起関係に伴う因果関係である。	
無標識	V	不表示	已然	事実であること	已然	事実であること	語順で論理関係などを表す“意合法”を使用するもの。“关联词语”を用いないと、前後の論理的な関係をはっきりさせる意図がうすい。	
		不表示(“标点符号”使用の場合あり)	已然	事実であること	已然	事実であること	場面描写文において、論理関係を明らかにさせる“关联词语”の使用が不必要になる。因果関係のニュアンスがうすい。“句群”で構成されるものもある。	

7. おわりに

以上、「から」とそれに対応する中国語の相当表現について、対照して考察した。「から」が中国語に訳されて、そのまま接続表現に置き換えられる場合は、原文の主節と従属節の表現内容によって、対応する中国語表現が異なることがわかった。また、「から」に

対応する表現が用いられないものは、実際は“关联词语”を用いても不自然ではないが、表現意図によって、“关联词语”が省略される場合と、事実描写文のように、“关联词语”を用いると不自然になり、因果関係を表す接続表現が用いられない場合がある。

これらの結果は、あくまでも今回の調査資料に対する特定の訳者による翻訳に限り観察された傾向であり、訳者の主観的な解釈を含んでいることも十分考えられるため、絶対的なものとは言えないが、日中対照研究の試案として位置づけられる。今後も、さらにデータを増やして、範囲を広げた研究を深めていきたい。

注

- 1) 関連作用を行う語句のことを指す。関連詞語は主として接続詞の「但是」,「如果」,「然而」など、副詞「又」「才」「就」等および一部の短語が当てられる。その働きは主に複文中の前件・後件を接続し、その構造的関係を表すことである。本文の引用は鈴木(1992:61)による。
- 2) 中国語の複文は1種の意合法であることがよくある。西洋の言語ではパラタクシスと呼ばれる。如何なる文法成分もなく2つの文をつなぎ合わせるとき、……, 文の形式の中に「逗調」があれば、1種のパラタクシスを構成することができる。この形式では、「逗調」も結合の文法的成分の働きをする。本文の引用は鈴木(1992:76)による。
- 3) 中国語では「偏正複句」という。1つの複文中に2つの分句があり、そのうちの一分句が他方の分句を修飾、限定している。刘月华他(1991)による。
- 4) 偏句が原因を表し、正句が結果を表すもの。
- 5) 偏句が条件を表し、正句が結果を表す。
- 6) 偏句がある事実を叙述し、正句にはこの事実に基づいて得られる誰もが納得するような結論は述べられず、むしろそれとは反対の事実または部分的に反対の事実を述べる。
- 7) 偏句で、ある事実を認めて譲歩し、正句が反対の角度から逆の意味を述べる。
- 8) 注3)と同じ。
- 9) 偏句は原因を説明し、正句はそれによって生じた結果を説明する。刘月华他(1991)による。
- 10) 偏句が原因・理由を表し、正句はそれに基づく推断する。刘月华他(1991)による。
- 11) 何を「真正モダリティ形式」とし、何を「疑似モダリティ形式」とするのかについては、仁田・益岡編(1989:34-40)の記述による。
- 12) “既”は“既然”と同じであり、「推断因果複文」を表す標識である。
- 13) 構造上関連し合って、しかも一つの明らかな中心的意味を巡って述べるいくつかの、独立しているセンテンスで結成された文群(「連文」)である。

用例出典

〔雪〕【雪国】川端康成 新潮社2002(1947)

- 《雪国》 ①徐輔材・杜水源译 《花的圆舞曲》p.280-400 湖南人民出版社1985
 ②叶渭渠译《雪国 古都 千只鹤》p.3-105 译林出版社2001
 ③高慧勤译《世界中篇小说经典文库·印度、日本卷》p.370-472 九州图书出版社1996

〔舌〕【吾輩は猫である】夏目漱石 新潮社2002(1905)

- 《我是猫》 ①于雷译 吉林大学出版社2000
 ②刘振瀛译 上海译文出版社1994

〔挽〕【挽歌】原田康子 新潮社1961

- 《挽歌》 林少华・张洁梅译 北京十月文艺出版社2000

参考文献

- 今尾ゆき子 (1991) 「カラ、ノデ、タメ——その選択制限をめぐって——」『日本語学』10-12
- 大河内康憲 (1967) 「複句における分句の接続関係」『中国語学』176
- 佐久間まゆみ (2002) 「3 接続詞・指示詞と文連鎖」益岡隆志編『日本の文法4 複文と談話』岩波書店
- 鈴木義昭 (1992) 「現代中国語の「关联词语」について」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』4
- 苞山武義 (1997) 「中国語複文の接続関係に関する一考察」『折尾女子経済短期大学論集』32
- 鄭 亨奎 (1992) 「条件の接続表現の研究—中国語話者の学習者の立場から—」『日本語教育』79
- 永野 賢 (1952) 「「から」と「ので」とはどう違うか」『国語と国文学』29-5
- 仁田義雄 (1989) 「現代日本語文のモダリティの体系と構造」仁田義雄・益岡隆志編『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 野田春美 (1997) 『の(だ)の機能』くろしお出版
- 原田松三郎 (1985) 「日本語と中国語における因果関係を表わす複文について」『外国研究』XVI神戸市外国語大学外国学研究所
- 蓮沼昭子他 (2001) 『日本語文法セルフマスターシリーズ7 条件表現』くろしお出版
- 益岡隆志 (1997) 『複文』くろしお出版
- 水野義道 (1985) 「接続表現の口中对照—「主従複文」と「条件の接続」—」『日本語教育』56
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語辞典』角川書店
- 于 日平 (2000) 《現代日語中原因、理由、目的句相关性的研究》世界知识出版社
- 王 起澜 (1989) 《汉语关联词词典》福建人民出版社
- 王 维贤他 (1994) 《现代汉语复句新解》华东师范大学出版社
- 邢 福义 (2002) 《汉语复句研究》商务印书馆
- 胡 裕树 (1989) 《现代汉语》上海人民出版社
- 张 志公 (1980) 《汉语知识》人民教育出版社
- 赵 恩芳他 (1998) 《现代汉语复句研究》山东教育出版社
- 刘 月华 (1991) 『現代中国語文法総覧(下)』くろしお出版
- 吕 叔湘 (1999) 《现代汉语八百词》商务印书馆